

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

変わる社会 集団主義から個人主義、さらには 日本はかねてから集団主義とされてきた。集団主義とは、社会からの目線で見た個人です。ですから、個人は生まれた時から社会の一員として扱われています。一方、個人主義は個人目線からの見た社会なので、個人が社会を構成すると考える訳です。

集団主義の立場で考えると、社会は大集団である。個人と社会の間には大小様々な集団（会社・市町村など）が、各々の集団の意図により個人をコントロールして、その意図を達成してきました。

かつて日本がおかれていた「村社会」という集団は、特有の個人のコントロール方法をしてきた。これは「掟」（おきて）と呼ばれるもので、いわば集団法である。しかしこの集団法は文章化させているものではなく、共通の利害として「暗黙のうちの了解」とされてきた。そしてこの集団法は一定の秩序を重んじ、これに反すると「村八分」という懲罰が課されていた。

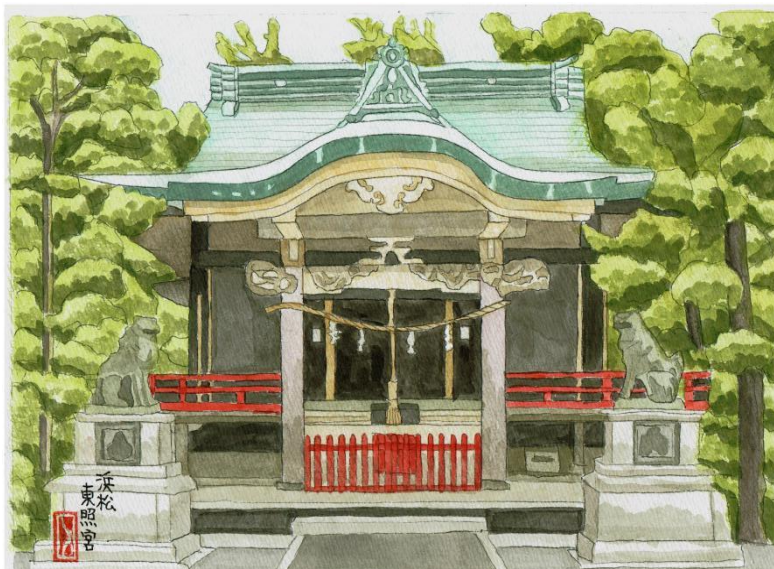
村八分は八分は「除け者」であり、二分だけは許されるものである。この二分は葬式の世話と火事の消火活動とされている。しかしこの状態ではそこに存在し続けることは困難であろう。そして、この集団が一般的には「世間」という言葉に置き換えて、「世間が許さない」とか「世間体が悪い」ということで、無秩序になることを規制していた。

このような同調圧力的な集団法は、集団内の「異質」をことごとく排除し、秩序化する方法でもあり、毒にも薬にもなる。異質を許さないこの集団法では、多様化などもってのほかである。

一方、1950年後半から台頭し始めたのが、西欧社会でいう個人主義である。個人主義は集団主義と異なるのは、個人の尊厳を尊重し、個人が社会参加して社会を構成するという考え方である。西欧社会は、多くの移民や移動の中で多民族的であることから、社会構成をするに当たり文章化する必要がある。個人が「社会契約」に参加し、契約違反が生じる場合は「罰則」（ペナルティー）が課せられる。ですから、個人は尊厳を尊重されながらも「自己責任が」問われる。

しかし、日本での個人主義は、集団主義の流れに反発する形の個人主義であり、時に「利己主義」と揶揄（やゆ）されることもしばしばである。つまり、自己責任を伴わない個人主義といえよう。

社会は急速な発展を遂げ、高度に分業化された社会に於いては、周りの人の世話にならなくも、生活が出来る時代ともなり、個人と社会は隔絶状況に陥っている。そこで蔓延し始めたのが「自分主義」である。自分主義は自分本位でもあり、他者の介入を許さない。この状況が社会への不参加や無縁社会と呼ばれるような、無秩序を生じる原因となっている。それは孤独化の要因となり、更には孤立を深める。自分らしさは必要はあるが、一人で生きられるものではないことをいつか知るだろう。



家康ゆかりの地

①元城町 浜松東照宮

浜松城の前身の曳馬城（引馬）があった地に建てられた東照宮。豊臣秀吉も曳馬城に訪れたことがあり、二人の武将を天下人へと導いた場所であり、パワースポットとしても人気のあるところ。

同窓会だより」掲載記事募集

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男

連絡先：〒430-0928

浜松市中区板屋町612-402

FAX: (053) 489-6391

ironman29@hotmail.co.jp

「同窓会だより」は、八幡中学ホームページトップの「特色ある活動」から入ると、スマホやパソコンからでも見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。「同窓会だより」は毎月発行。